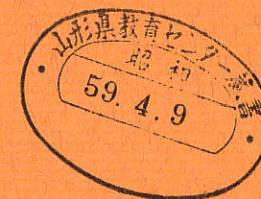


研究報告書第 28 号



中学校の生活にかかわる生徒たちの気持ち
と教師の考えについて



1984. 3

山形県教育センター

06-00
C,
82

資料整理カード F8-01

1984年3月刊

中学校の生活にかかわる生徒たちの気持ち と教師の考えについて

山形県教育センター

目 次

I 研究の趣旨とねらい

1. 研究のねらい
2. 研究の趣旨

II 研究の手順と調査の方法

1. 研究の手順
2. 調査の方法

III 研究の内容 — 調査結果の分析と考察 —

1. 学校の生活に対する満足感と期待感について
2. 教師と生徒の人間関係について
3. 将来の進路について
4. 学校のきまりおよび問題行動について

IV 研究のまとめと今後の研究課題

1. 研究のまとめ
2. 今後の研究課題

V 資 料

質問紙調査票と回答結果

研 究 の 概 要

1 研究の趣旨とねらい

教育は、教師という人が、生徒という人に影響を及ぼしていく行為に外ならない。したがって、両者の間には、その根底に、お互いに信じ合うということが成立していなければ、人と人のおこなわれる行為は意味のないものになってしまうであろう。教師と生徒がお互いに信じ合うためには、互いに相手の気持ちや考えを理解し合う必要があるものと考えます。

このような考え方に立って、中学校の生活にかかわり、生徒たちの気持ちと教師の考えの実態を調査し、生徒たちの気持ちと教師の考えとの間にみられるちがいをうきほりにしようとするものである。

2 研究の手順と調査の方法

- (1) 中学校の生活にかかわり、選択肢質問紙法による調査票を、生徒用のものと教師用のものを用意する。
- (2) 調査対象校を無作為に抽出し、各対象校に調査票を郵送する。調査対象者が無記名で記入したものを郵送により回収する。
- (3) 回収した生徒用調査票、教師用調査票をそれぞれ集計し、生徒の反応傾向と教師の反応傾向をつきあわせて、両者の間にみられるちがいを見いだす。

3 研究の内容 — 調査結果の分析と考察 —

学校の生活に対する満足感については、満足感をもっていると感じている生徒は5人に1人である。これに対して教師の半数が、生徒たちは満足感をもっていると考えている。満足感をもてない理由として、生徒の半数と教師の半数はともに、学校の生活に熱中できるものがないことをあげている。学校の生活に期待していることについては、生徒は勉強することをあげているが、教師は部活動に期待をよせているものととらえている。

生徒と教師の人間関係については、生徒の大部分が、ほとんどの先生からわかってもらえない、または3分の1ぐらいの先生からしかわかってもらっていないと思っているが、逆に教師の大方は、半数以上の生徒が教師からわかってもらっているものと考えている。

将来の進路についての不安や悩みとしては、生徒と教師の大部分がともに、当面の学習の成績のことをあげているが、生徒は教師が考えている以上に高校卒業後の進学や就職のことを心配している。

学校のきまりについては、生徒同士できまりを守っていこうとする、いわゆる生徒たちの自浄能力は教師が考えているほどには働いていない。問題行動の原因としては、生徒は学校の生活がおもしろくないことをあげているが、教師は生徒自身の自覚や性格の問題、マスコミの影響などをあげている。

4 今後の研究課題

- (1) 生徒たちの気持ちと教師の考えとの間にみられるちがいが、いつごろから、どのような状況の中で生じてきているかを調べてみたい。
- (2) 生徒たちの気持ちと教師の考えとの間にみられるちがいをうずめる手だてを考えてみたい。

は し が き

今日、教育における重要な課題の一つは、深刻の度合いを増していく生徒指導上の諸問題を早急に解決することにあります。

特に、いわゆる校内暴力という言葉に象徴されるように、教師と生徒の関係がいろいろとりざたされております。教師と生徒の断絶という言葉さえ耳にする昨今であります。教育は、教師と生徒の断絶という状態の中で成り立つことはあり得ません。教えて育てようとする教師の考えと、学んで育ていく生徒の気持ちが一致することがまず大事なことでありと思います。

教師は生徒のねがいを真に受けとめる。また生徒は教師の意図を正しく受け入れる。この二つがからみあってはじめて、生徒の人間としての成長をみることができるのではないのでしょうか。

そのためには、まず教師と生徒がお互いに相手の気持ちや考えを理解し合う必要があると考えます。

そこで、当教育センターは、教師と生徒との信頼関係に関する研究に2か年計画で取り組み、その第1年次として「中学校の生活にかかわる生徒たちの気持ちと教師の考えについて」をまとめ、発刊することといたしました。

この研究は、生徒たちの学校の生活にかかわり、生徒たちの気持ちと教師の考えの実態を調査し、生徒たちの気持ちと教師の考えとの間にみられるちがいをうきほりにしようとしたものであります。

調査の内容も十分でなかったり、また研究の進め方に不備な点も少なくはないと思います。実践の立場からきびしく、建設的にご批判下さるとともに、私どもの意のあるところをもおくり取り下さって、各学校における生徒指導にかかわる研修や実践の資料として役立てて下さることを願ってやみません。

最後に、調査にご協力下さいました各学校の先生方ならびに生徒のみなさんに心からお礼申し上げます。

昭和59年3月

山形県教育センター

所長 五十嵐 和 夫

目 次

I 研究の趣旨とねらい	1
1. 研究のねらい	1
2. 研究の趣旨	1
II 研究の手順と調査の方法	2
1. 研究の手順	2
2. 調査の方法	2
III 研究の内容 — 調査結果の分析と考察 —	3
1. 学校の生活に対する満足感と期待感について	3
2. 教師と生徒の人間関係について	6
3. 将来の進路について	8
4. 学校のきまりおよび問題行動について	10
IV 研究のまとめと今後の研究課題	14
1. 研究のまとめ	14
2. 今後の研究課題	15
V 資 料	16
質問紙調査票と回答結果	16

研 究 担 当 者

指導主事	梅	本	英	夫
指導主事	永	田	克	彦
指導主事	中	村	直	資
指導主事	菊	地		清

I 研究の趣旨とねらい

1 研究のねらい

中学校の生活にかかわり、生徒たちの気持ちと教師の考えとの間にみられるちがいをうきばりにする。

2 研究の趣旨

このごろ、生徒たちの学校の生活にかかわって、教師からは「いまの生徒たちは何を考えているのかわからない」、生徒たちからは「先生たちはおれたちのことをわかってくれない」ということばを以前にも増して耳にすることが多くなってきた。教師と生徒たちのこれらの言い分を、このまま聞き流すことはできないであろう。

そもそも、教育は、教師という人が生徒という人に影響を及ぼしていく行為に外ならない。つきつめれば、人が人に影響を及ぼす行為である。人と人の間には、その根底に、お互いに信じ合うということが成立しなければ、人と人の間におこなわれる行為は意味のないものになってしまうであろう。

したがって、教師と生徒にとって、まず必要なことは、お互いに信じ合うことであると考ええる。しかし、教師と生徒は、はじめからお互いに信じ合うことはできないであろう。それは、教師と生徒との間におこなわれる教育という営みを通すことにより、教師と生徒の双方が一緒になって生みだしていくものではなかろうか。

そのためには、教師は、生徒の気持ちを知る必要があろうし、生徒たちは、教師の考えを受け入れようとする気持ちをもっていなければならないであろう。この二つのことがからみあってこそ、教育の効果が期待されると考えるのである。

そこで、本研究は、中学校の生活にかかわり、生徒たちの気持ちと教師の考えの実態を、次の視点から調査し、生徒たちの気持ちと教師の考えとの間にみられるちがいをうきばりにしようとするものである。

- (1) 生徒たちは、このごろの学校の生活をどのような気持ちですごしており、教師や学校に対してどのような不満や期待をもっているのだろうか。一方、教師は、生徒たちのこれらの気持ちや不満、期待をどのようにとらえているのだろうか。
- (2) 生徒たちは、自分のことをどのくらいの教師からわかってもらえていると思っているのだろうか。教師と生徒との接し方にかかわって、教師に強く反抗したい気持ちになるのはどんなときであろうか。一方、教師は、生徒たちのこれらの気持ちをどのようにとらえているのだろうか。
- (3) 生徒たちは、将来の進路や生き方について、どんな不安や悩みをもち、それらをとりぞくために、教師に対してどんなことを望んでいるのだろうか。一方、教師は、生徒たちのこれらの不安や悩み、要望をどのようにとらえているのだろうか。
- (4) 生徒たちは、学校のきまりに対してどんな気持ちをもっているのだろうか。また、いわゆる校内暴力などの問題行動についてどんな考えをもっているのだろうか。一方、教師は、生徒たちのこれらの気持ちや考えをどのようにとらえているのだろうか。

Ⅱ 研究の手順と調査の方法

1 研究の手順

- (1) 中学校の生活にかかわり、選択肢質問紙法による調査票を、生徒用のものと教師用のものを用意する。なお、調査票の全容については本報告の16ページから20ページに記載する。
- (2) 調査対象校を無作為に抽出し、各対象校に調査票を郵送する。郵送により回収する。
- (3) 回収した生徒用調査票、教師用調査票をそれぞれ集計し、生徒の反応傾向と教師の反応傾向をつきあわせて、両者の間にみられるちがいを見いだす。

2 調査の方法

(1) 調査対象の抽出

県内の公立中学校を地域、学校規模によりおおよそ層化したあと、本県中学校数の20%強にあたる34校を無作為に抽出した。

抽出された学校の第3学年の任意の1学級の生徒全員、およびその学校の教員（教諭、助教諭、常勤の講師、養護教諭）全員を調査の対象とした。

(2) 調査の項目

調査の項目はおおむね次のとおりであるが、詳しくは16ページから20ページを読まれたい。

- ① 生徒たちの学校の生活に対する満足感と期待感について
- ② 教師と生徒の人間関係について
- ③ 生徒たちの将来の進路について
- ④ 学校のきまりおよび問題行動について

(3) 調査の方法

選択肢質問紙法による生徒用調査票と教師用調査票とを各調査対象校へ郵送し、調査対象者が無記名で記入したあと、郵送により回収した。

(4) 調査の期間

昭和58年10月3日から10月25日まで

(5) 調査の対象となった人数と調査票の回収率

	生 徒	教 師
調査対象の校数	34校（22.7%）	34校（22.7%）
調査対象の人数	1,308人（7.6%）	656人（26.9%）
調査票の回収率	96.1%	91.5%

表中の（ ）内の数字は当該項目の県の全数に対する割合

Ⅲ 研究の内容

— 調査結果の分析と考察 —

ここでは、調査の結果をもとに、1.学校の生活に対する満足感と期待感 2.教師と生徒の人間関係 3.将来の進路 4.学校のきまりおよび問題行動の四つの視点から、生徒たちの気持ちと教師の考えの実態、およびその間にはどのようなちがいがいるのかを分析し、考察する。

1 学校の生活に対する満足感と期待感について

(1) 学校の生活に対する満足感について

【質問1】近ごろ、あなた（生徒たち）は、一日の学校生活が終わってその日の学校生活をふりかえるとき、満たされた気持ちになることが多いですか（多いと思いますか）、それとも少ないですか（少ないと思いますか）。

※（ ）内は教師に対する質問である。以下同じ。

生徒	非常に多い 1.3%	多い 18.2%	少ない 26.9%	非常に少ない 15.5%	どちらともいえない 38.1%
	50%				
教師	非常に多いと思う 0.7%				
	多いと思う 47.8%		少ないと思う 32.3%		非常に少ないと思う 7.7% どちらともいえない 11.5%

質問に対し、生徒の約42%と教師の40%が満足感をもっていないとこたえている。満足感をもっているとした生徒は約20%であり、生徒たちは満足感をもっていると思うとした教師が約49%であることをみると、毎日の学校の生活の満足感については、生徒と教師で意識にちがいがみられる。

また、どちらともいえないとこたえた生徒が約38%いるのに対し、教師のこたえは約12%であり、そのちがいが気になるところである。

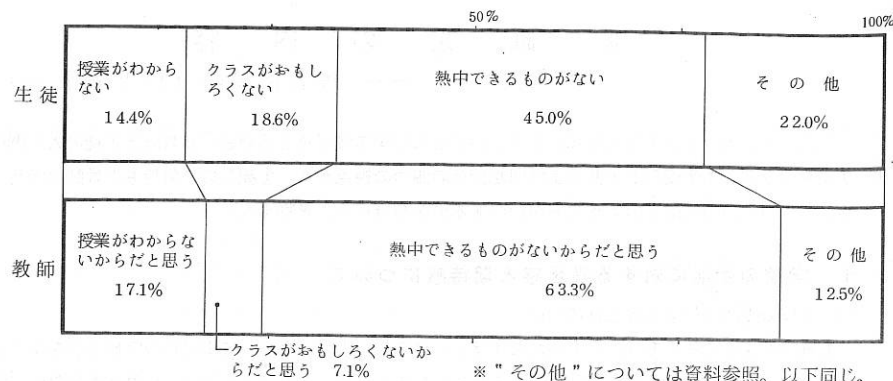
さらに、教師の40%が、生徒たちは満足感をもっていないと思っていることに注目したい。

【質問2】質問1で“満たされた気持ちになることが少ない”、“満たされた気持ちになることが非常に少ない”を選んだ人（方）だけ教えてください。

それは、どういうことからですか（どういうことからだと思いますか）。

学校の生活に満足感をもてないとした生徒のうち、45%が、その理由として、熱中できるものがないから、をあげており、教師も約63%がこれと同じこたえをしている。

これをみると、学校の生活に満足感をもてない理由については、生徒と教師の見方に大きなちがいは



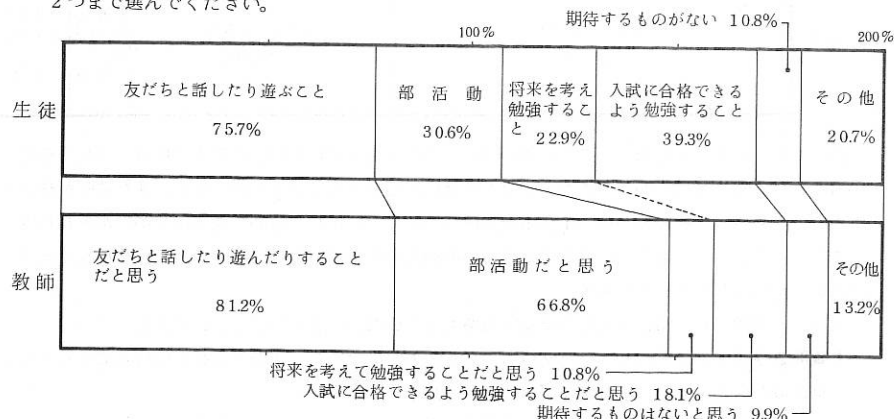
ないものの、学校の生活に熱中できるものがないと思っているものが生徒、教師ともに約半数いるという事は、現在の中学校教育における指導の実際に大きな問題を投げかけているように思える。

また、生徒は、授業がわからないから、よりもクラスのふんいきがおもしろくないから、とこたえている方が多いが、教師はその逆で、クラスのことよりも授業がわからないからだと思う、をあげているのに注目したい。

(2) 学校の生活に対する期待感について

【質問3】あなた(生徒たち)は、学校の生活にどんなことを期待していますか(期待していると思いますか)。

2つまで選んでください。



質問に対し、友だちと話をしたり遊んだりすること、とこたえた生徒と教師は、ほぼ同じ傾向を示しているが、部活動などで趣味や特技を伸ばすこと、には生徒のこたえは約31%であるのに対し、教師のそれは約67%である。将来を考えながら、高校入試に合格できるようにか、理由は異なるにして

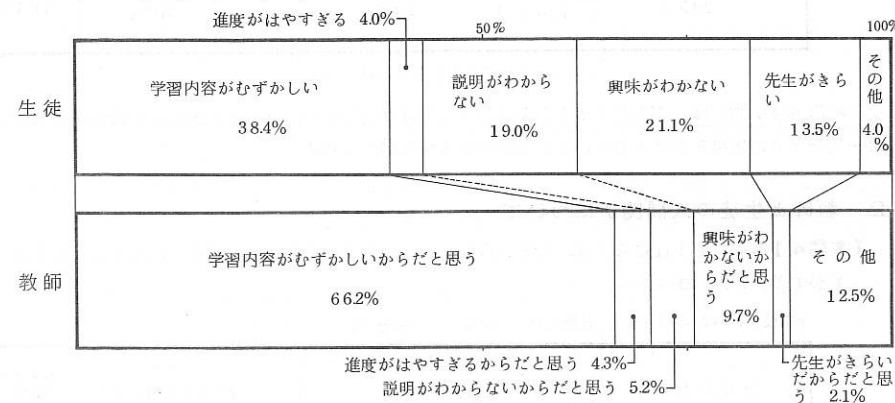
も、勉強すること、に生徒は約62%がこたえているのに対し、教師は約29%しかこたえていない。これらのことから、学校の生活に期待していることのうち、勉強と部活動に関して、生徒と教師の間に意識のちがいがみられる。

また、学校の生活に期待するものがないとこたえた生徒と教師がともに約10%いることに注目したい。

【質問9】あなた(生徒たち)には、(それぞれ)きれいな教科がありますか(あると思いますか)。

【質問10】質問9で"ある"を選んだ人(方)だけ教えてください。

- (1) その教科はどれですか(どれだと思いますか)。
- (2) どういう理由からきれいなのですか(きれいなのだと思いますか)。



きれいな教科のある生徒は約88%、生徒にはきれいな教科があると思っている教師は約93%おり、きれいな教科は、生徒、教師ともに英語と数学が多い。(資料の質問9、10の項参照)

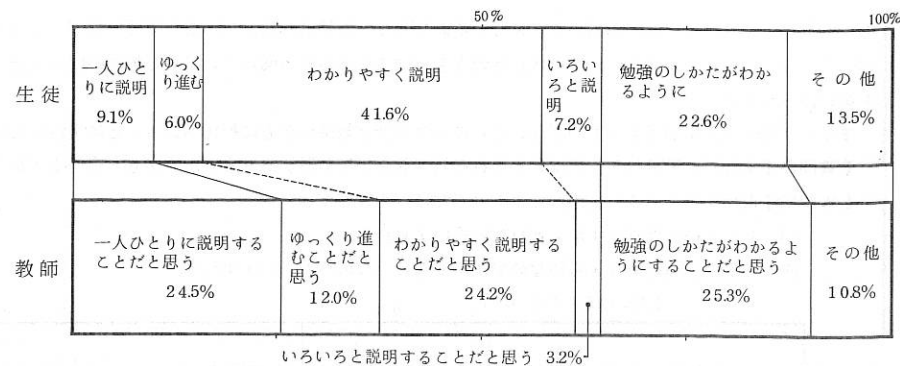
きれいな理由では、生徒の約38%が学習する内容がむずかしかったり、できなかったりするから、とこたえているのに対し、教師のこたえは約66%である。一方、授業の進み方がはやすぎるから、先生の説明することがわからないから、興味がわかないから、など、学習の方法にかかわる理由には、生徒は約44%がこたえているが、教師の方は約19%がこたえている。

これらのことから、教科のきれいな理由について、生徒は学習方法にかかわることをあげているものが相当数あるのに対し、教師は学習内容のむずかしさをあげているものが多いことをみると、両者の考え方に、かなりのちがいがわかる。

また、教科を受け持つ先生がきらいだから、という理由には生徒は約14%がこたえているが、教師は約2%のこたえにすぎないことに注目したい。

【質問11】あなた(生徒たち)は、(それぞれ)きれいな教科の授業では、先生にどんなことを希望しますか(希望していると思いますか)。

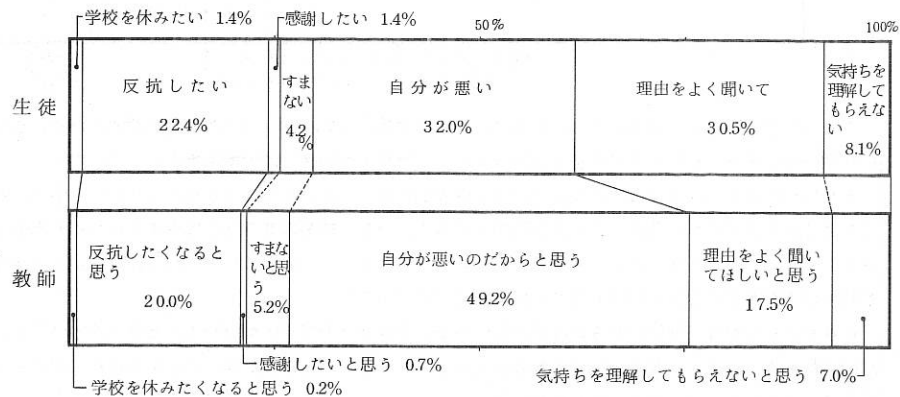
質問に対し、勉強のしかたがわかるように授業を進めてほしい、には生徒、教師ともにほぼ同じ割合でこたえている。わからないところは一人ひとりに説明してほしい、とこたえた生徒は約9%であるのに対し、教師は約25%がこたえていることと、わかりやすく説明してほしい、には生徒の約42%が



こたえているが、教師は約24%であることをみると、生徒は教師のわかりやすい授業に期待し、教師の方は一人ひとりの指導を期待されていると考えている傾向がみられる。

2. 教師と生徒の人間関係について

【質問4】あなた（生徒たち）は、先生からしかられたとき、どのような気持ちになることが多いですか（多いと思いますか）。

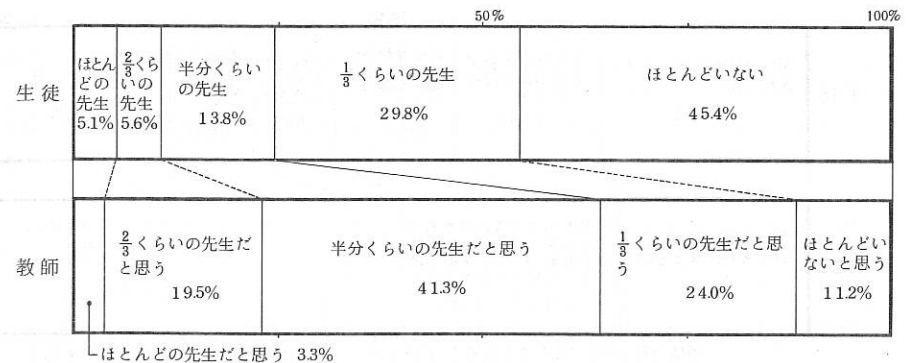


質問に対し、自分が悪いのだからしかたがないと思う、先生に対してすまないという気持ちになることが多い、など自分の非を認める傾向を示した生徒が約38%いるが、教師の方も約55%いる。

一方、理由をよく聞いてからしかってほしい、自分の気持ちを先生に理解してもらえなくて情なく思うときが多い、とこたえた生徒は約39%いるが、教師でそれらにこたえたのは約25%である。

これらのことから、自分の非を認める傾向と、どちらかというと教師のしかり方に不満があるという傾向とでは、生徒ではほぼ二分した割合であるが、教師では生徒自身が非を認めていると思っている傾向が強いことがみられる。

【質問6】あなたの学校で、あなたのこと（生徒たちは自分のこと）をわかってくれる先生がどのくらいいると思いますか（どのくらいいると思っているでしょうか）。

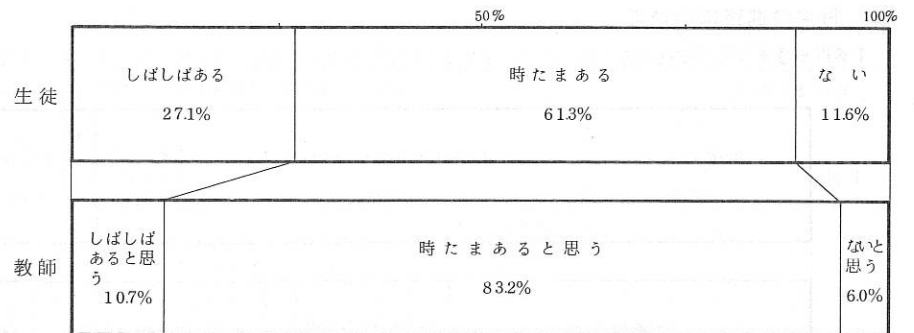


質問に対し、自分のことをわかってくれる先生が半分以上いるとこたえた生徒は約25%で、ほとんどいない、3分の1くらい、とこたえた生徒は約75%である。すなわち生徒の4分の3は、自分のことをわかってくれる先生は少ないと思っている。一方、教師は、生徒たちは自分のことをわかってくれる先生は半分以上いると思っている、に約64%がこたえ、ほとんどいない、3分の1くらいしかいないと思っているには約35%と、ほぼ生徒と逆の割合になっている。

これらのことから、生徒たちは、教師が考えているほどには自分のことを先生たちはわかってくれていないと感じており、両者の間には大きなちがいがあることがわかる。

また、教師の約35%が、生徒たちのことをわかってくれる先生はほとんどいない、3分の1くらいだと考えていることも、問題点として注目したい。

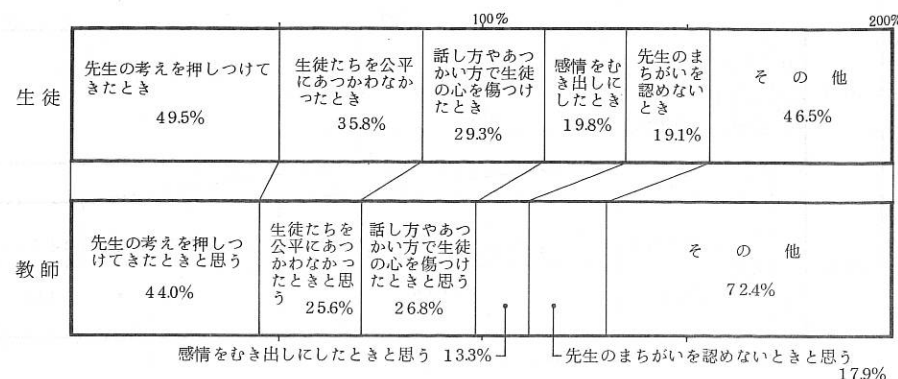
【質問17】あなた（生徒たち）は、先生の生徒への接し方に関して（かかわって）、先生へ強く反抗したくなることがありますか（あると思いますか）。



質問に対し、しばしばある、とこたえた生徒は教師が思っているよりもかなり多い。最近問題になっている、いわゆる校内暴力との関係で注目すべきことではないだろうか。

【質問18】質問17で“しばしばある”，“時々ある”を選んだ人（方）だけ教えてください。

それは、主にどんなときでしたか（どんなときであったと思いますか）。2つまで選んでください。



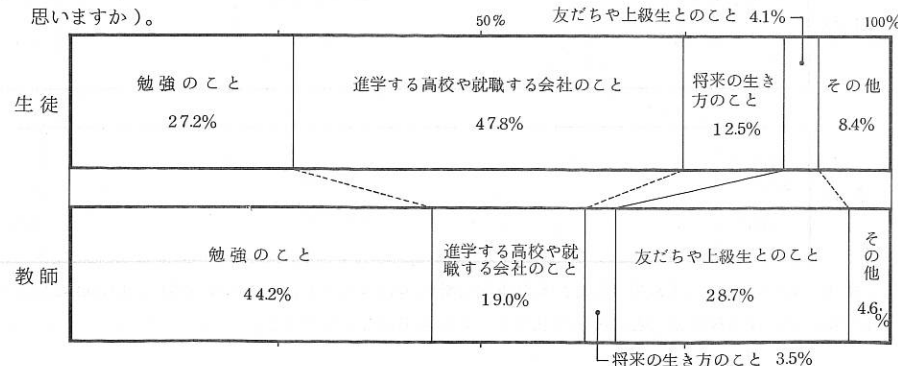
質問に対して、生徒は①生徒の言いぶんを聞くことよりも先生の考えを押しつけてきたとき ②先生が生徒たちを公平にあつかわなかったとき ③生徒たちの気持ちを考えない話し方やあつかい方で生徒たちの心を傷つけたとき、の順でこたえており、教師もほぼ同じ傾向である。これらを見ると、生徒たちも教師も、教師の一方的な姿勢に問題を感じているように思われる。

また、質問8で、学校のきまりで禁止されているズボンをはいている生徒に、あなた（生徒たち）はどうしますか（どのような気持ちにならと思いますか）、と質問したところ、もっと強く注意してくれるように先生に申し出る、とこたえた生徒は約6%であるのに対し、先生に申し出たいという気持ちになるとこたえた教師は約35%であった。（詳細については11ページ参照）

このことは、教師が考えているほどには、生徒は教師を頼ってはいない、ということにはならないのだろうか。

3 将来の進路について

【質問5】あなた（生徒たち）は、いま、どんなことに不安や悩みをもっていますか（もっているといますか）。



質問に対して、ほとんど全部の生徒がなんらかの不安や悩みをもっていることこたえている。その不安や悩みの内容としては、生徒の約88%が勉強のこと、進学する高校や就職する会社のこと、将来の生き方のことの三つにこたえが集中している。それに対して、教師もその約67%が同じように勉強のこと、進学する高校や就職する会社のこと、将来の生き方のことにこたえている。

しかし、生徒と教師のこたえの割合をみると、かなりのちがいがみられる。すなわち、生徒は進学する高校や就職する会社のことおよび将来の生き方のことについて不安や悩みをもっているが、教師はそれらのことよりも、勉強のことに悩みをもっていると思っている。また、教師は生徒が友だちや上級生とのことについて不安や悩みをもっていると思っている者が、生徒にくらべてかなり多い。

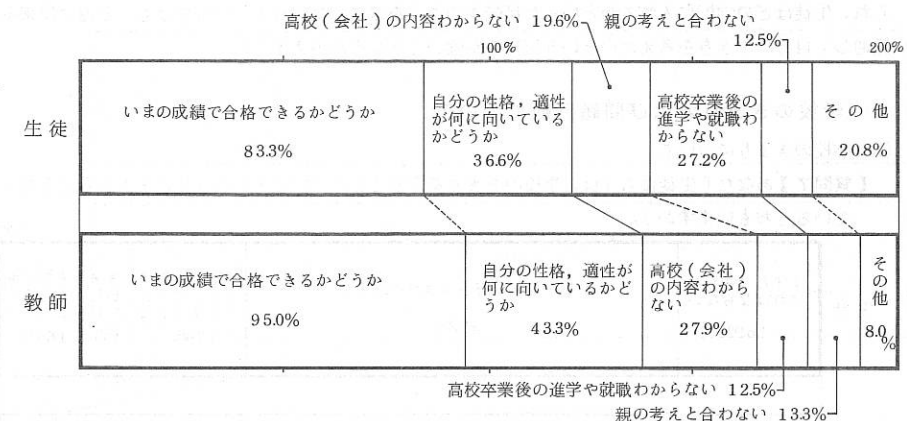
【質問12】あなた（生徒たち）は、中学校を卒業した後、どの高校に進学するかあるいはどの会社就職するかを決めるとき、どんな不安や悩みをもっていますか（もっているといますか）。

2つまで選んでください。

質問に対して、生徒の約83%がいまの成績で合格できるかどうかとこたえている。次いで、生徒の約37%が自分の性格、適性が何に向いているかわからないとこたえている。

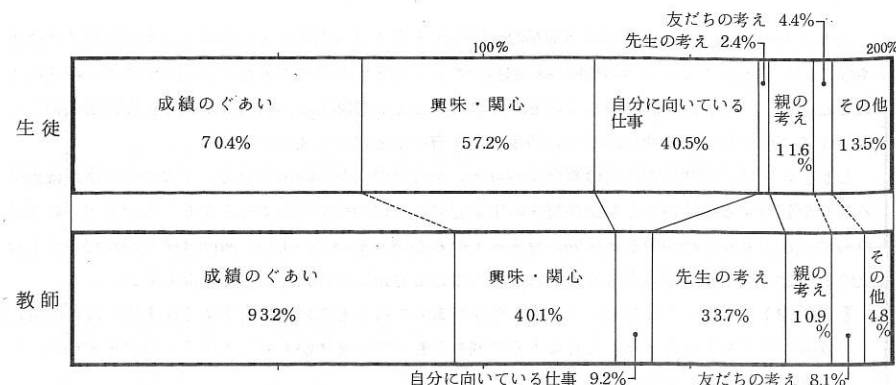
それに対して、教師はその95%がいまの成績で合格できるかどうかとこたえ、また約43%が自分の性格適性が何に向いているかわからないとこたえている。

このことから、生徒と教師の間には大きなちがいはみられないようであるが、ただ、進学したい高校あるいは就職したい会社の内容がわからない、と高校卒業後の進学や就職についてのことがわからないに對するこたえの順位が、生徒と教師では逆になっている。生徒は、教師が考えている以上に、中学校卒業直後のことだけでなく高校卒業後の進学や就職についてのことまで、心配していることがわかる。



なお、自分の性格、適性が何に向いているかわからないに對するこたえの割合は、生徒と教師の間でそれほどちがいは見られないが、生徒も教師もそれに対してはいずれも相当数がこたえている。

【質問14】あなた（生徒たち）は、中学校を卒業した後、進学する高校あるいは就職する会社を選ぶとき、どういうことを考えて選びますか（選ぶと思いますか）。2つまで選んでください。



質問に対し、生徒の約70%は成績のぐあいとこたえ、次いでその約57%が興味・関心とこたえている。それに対して、教師の約93%は成績のぐあいとこたえ、次いでその約40%が興味・関心とこたえているが、生徒と教師のこたえの割合にはかなりのちがいが見られる。

また、先生の考えによってこたえた生徒は約2%にすぎないが、教師は約34%もこたえている。このちがいはかなり大きい。

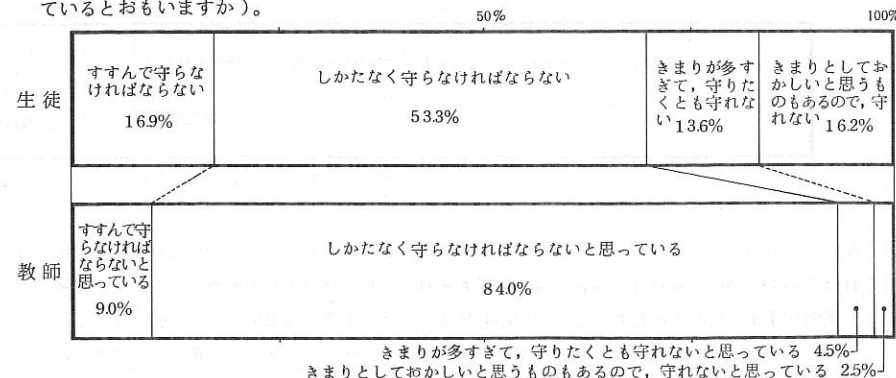
これとは逆に、生徒の約41%が自分に向いている仕事、とこたえているが、教師は約9%がこたえているにすぎない。このちがいも注目すべきである。

これらのことから、中学生の進路に関して生徒の気持ちと教師の考えの間にはいろいろのちがいがみられ、生徒はどの学校に入れるかといった目先のことを気にしながらも、一方ではもっと遠い将来を見通して自分の生き方を考えたいという気持ちが強いことがうかがえる。

4. 学校のきまりおよび問題行動について

(1) 学校のきまりについて

【質問7】あなた（生徒たち）は、学校のきまりを守ることにどう思っていますか（どう思っているとおもいますか）。



質問に対し、生徒の約70%は、すすんで守らなければならないとしかたなく守らなければならないとこたえている。つまり、生徒の大部分は、すすんでしかたなくかのちがいはあっても、きまりは守らなくてはならないという気持ちをもってしているとみられる。

それに対して、教師はすすんで守らなければならないと思っている、しかたなく守らなければならないと思っている、を合わせて93%がこたえている。つまり、教師のほとんどは生徒が学校のきまりを守らなければならないという気持ちをもってしているとみている。

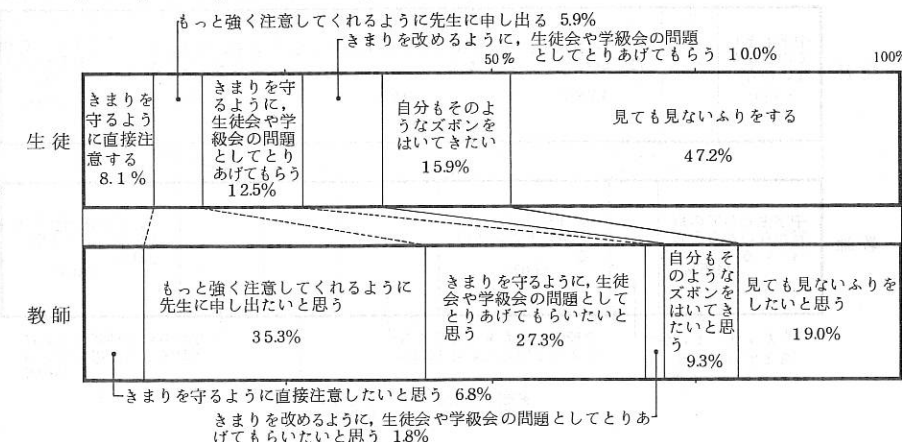
これらのことから、生徒の気持ちと教師の考えとの間には、大すじとしてちがいはないとみてさしつかえない。

しかし、守れないとこたえたものは、教師には少ないが、生徒には3人に1人の割合でみられるのは注目していかなければならないところである。

【質問8】学校のきまりで禁止されているズボンをはいている生徒がいました。先生が何度注意しても、その生徒は、先生の注意に従いません。

そのようなとき、あなた（生徒たち）はどうしますか（どのような気持ちになるとおもいますか）。

質問に対して、生徒の約47%は、見ても見ないふりをするこたえている。次いで、生徒の約16%はきまりを守らなくてもどうということはないので、自分もそのようなズボンをはいてきたいとこたえている。一方、きまりを守るように直接注意する、もっと強く注意してくれるように先生に申し出る、きまりを守るようにあるいはきまりを改めるように生徒会や学級会の問題としてとりあげてもらう、とこたえた者は、合わせて約37%しかいない。



それに対して、教師は見ても見ないふりをしたいには19%、自分もそのようなズボンをはいてきたいには約9%がこたえている。一方、直接注意したい、先生に申し出たい、生徒会や学級会の問題としてとりあげてもらいたい、とこたえた者は、合わせて約71%である。

これらのことから、生徒の気持ちと教師の見方にはかなりのちがいがあるように見受けられる。

生徒たちはこの質問のように学校のきまりについての具体的な場面に出合ったときには、きまりを守

るために、生徒同士の間で注意をしたり生徒会や学級会の問題としてとりあげようとすることは少ないように見てとれる。つまり、生徒たちの間では、教師が思うほどのいわゆる自浄能力は働いていないことがうかがわれる。

また、もっと強く注意してくれるように先生に申し出る（出たい）、に対する生徒と教師のこたえのちがいが大きいのは注目すべきであろう。

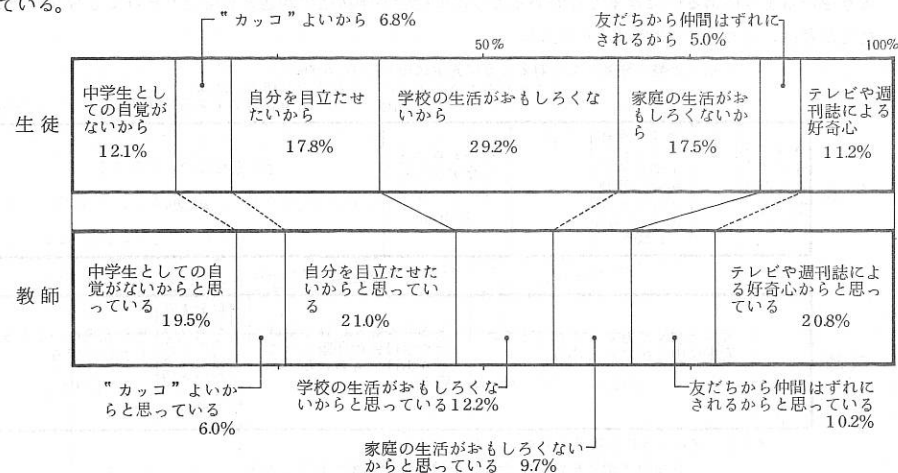
(2) 問題行動について

【質問15】中学生の中に、万引きをしたり、たばこをすったりするなどの問題行動を起こす生徒が多くなっているといわれています。

その生徒たちがそのような行動を起こす原因について、あなた（生徒たち）はどう考えますか（どう考えていると思いますか）。

質問に対して、生徒の約47%は学校の生活や家庭の生活がおもしろくないからとこたえている。また、中学生としての自覚がないから、「カッコ」よいから、自分を目立たせたいからに、合わせて約37%の生徒がこたえている。

それに対して、教師の約47%は中学生としての自覚がないから、「カッコ」よいから、自分を目立たせたいから、にこたえており、教師の約22%が学校の生活や家庭の生活がおもしろくないからとこたえている。

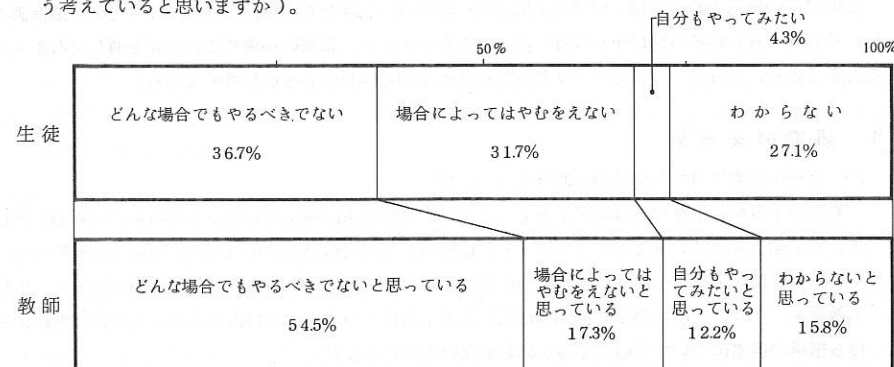


また、生徒はその約16%が友だちやテレビ・週刊誌の影響とこたえているが、これに対して、教師はその31%がこたえている。

これらのことから、生徒は、第一に学校や家庭の生活に、次いで生徒自身の自覚や性格に、教師は第一に生徒自身の自覚や性格に、次いで友だちやテレビ・週刊誌の影響に、問題行動の原因をみていることがうかがわれ、生徒と教師の間には見方のちがいがみられる。

【質問16】近ごろ、中学生の中に、先生や校舎などに暴力をふるう生徒が多くなっているといわれています。

その生徒たちがそのような行動を起こすことについて、あなた（生徒たち）はどう考えますか（どう考えていると思いますか）。



質問に対して、どんな場合でもやるべきでないとこたえた生徒は約37%である。一方、場合によってはやむをえない、わからないとこたえた生徒は約59%である。それに対して、どんな場合でもやるべきでないとこたえた教師は、生徒より多いが約55%にすぎない。また、自分もやってみようと思っているとこたえた教師は約12%で、生徒よりも多い。

Ⅳ 研究のまとめと今後の研究課題

このたびの研究のねらいは、中学校の生活にかかわり、生徒たちの気持ちと教師の考えの実態を調査し、その間にみられるちがいをうきぼりにすることにあった。調査の結果やこの研究を通してわかったことをまとめ、さらに、今後どのような研究を進めていく必要があるかを考えてみる。

1 研究のまとめ

(1) 学校の生活に対する満足感と期待感について

教師の半数が、生徒たちは満足感をもって毎日の学校の生活をすごしていると考えているのに対して、満足感をもってこたえている生徒は教師のこたえの半分に満たない。生徒は、教師が考えているほどには学校の生活に満足していないことがわかる。満足感をもっていない理由として、生徒も教師も、学校の生活に熱中できるものがないことをあげている。この理由を考えると、中学校における指導の実際について見直してみる必要がないものだろうか。

学校の生活に期待していることとして、生徒と教師の多くはともに、友だちと話をしたり、遊んだりすることをあげている。そのほかに、生徒は勉強することにも大きな期待をよせているが、教師は、勉強することよりも部活動に期待をよせているものととらえている。生徒たちは、楽しい学校の生活を送りたいと思っている半面、学習に対しても、かなりの意欲を示していることに教師はもっと目を向けなければならないのではないだろうか。

また、教科の学習で教師に望みたいこととして、生徒の多くは教師のわかりやすい説明を授業に求めている。教師の授業の進め方に工夫してみる問題はないのだろうか。

(2) 教師と生徒の人間関係について

生徒の大部分は、ほとんどの先生からわかってもらえない、または3分の1ぐらいの先生からしかわかってもらっていないと思っている。逆に、教師の大方は、半数以上の生徒が教師からわかってもらっているものと考えており、生徒と教師の間にはかなりのちがいがみられる。生徒は、教師が考えているほどには、教師からわかってもらっていないと感じている。教育において、生徒と教師が互いに理解し合うことが大切であることを考えると、教師と生徒の好ましい人間関係を成立させるうえで、このちがいは特に注目していかなければならないことであろう。

教師の生徒への接し方にかかわって、先生へ強く反抗したくなったときの理由として、生徒と教師の多くがともに、生徒の言いぶんを聞くことよりも、先生の考えを押しつけてきたときなどをあげている。生徒も教師も、教師の一方的な指導の姿勢に問題を感じているように思える。

(3) 将来の進路について

中学校の生活の不安や悩みとして、生徒の半数以上が進学する高校のことや将来の生き方のことなどの進路に関することをあげているが、教師のこたえは生徒のその3分の1にすぎない。むしろ、

教師のほとんどは、勉強のことや友だちや上級生とのことをあげている。生徒は、教師が考えている以上に将来の進路について強い不安をもっていることがわかる。

中学校卒業後の進路についての不安や悩みとしては、生徒と教師のほとんどが、いまの成績で高校に合格できるかどうかを心配している。また、生徒は高校の内容がわからないということよりも、高校を卒業したあとの進学や就職についての不安が大きいものに対して、教師の考えはその逆になっている。中学生にとって進路を決めることは、ある面では人生の方向をきめてしまうことにもかかわる。したがって、進路についてみられるこれらのちがいは、今後の進路指導の進め方に大きな問題を投げかけているように思える。

(4) 学校のきまりおよび問題行動について

学校のきまりに対して、生徒の多くは、守らなければならないという気持ちをもっている。しかし、その気持ちは決して強固なものではなく、しかたなく守っているものであり、またきまりを守らない生徒に守らせようとする働きかけも弱い。一方、きまりが多すぎる、きまりとしておかしいと思うものもある、ことをあげて、きまりが守れないとする生徒も少なくはない。それに対して、教師のほとんどが生徒たちはきまりを守らなければならないと思っているととらえている。このことから、きまりそのものの必要性を検討してみることやきまりの意義を心から理解させる指導が必要であろう。また、集団生活の充実を図り、生徒間の相互作用を高めていく指導も必要であろう。

問題行動については、その原因は確かに複合的なものであろうが、生徒はその原因を学校の生活に対する不満に最も多く求めている。これに対して教師は、生徒自身が目だちたいからとかマスコミの影響などをあげている。このことから、生徒が学校の生活に対して少しでも充実感を高めていくような指導の工夫が望まれるであろう。

2. 今後の研究課題

(1) 生徒たちの気持ちと教師の考えとの間にみられるちがいが、いつごろから、どのような状況の中で生じてきているかを探してみたい。

このたびの研究において、あることがらについては、中学校第3学年の生徒たちの気持ちと教師の考えの間には、かなりのちがいがあることがわかった。しかし、このちがいは、中学校第3学年となって突然に生じてきたものであるとは考えられない。生徒たちが教師とふれあいはじめた中学校入学時から、あるいは、もっと早い小学校時代から、学校内外における生活の中で少しずつ生じてきたものとするからである。

(2) 生徒たちの気持ちと教師の考えとの間にみられるちがいをうずめる手だてを考えてみたい。

生徒たちの気持ちと教師の考えとの間にちがいがなく、教育において大切である。このことは、また、生徒と教師が互いに信じ合っている姿を作り出すことにつながる。このたびの研究においてわかったような両者の間にみられるちがいをうずめる手だてを見いだすことが、いま社会の問題となっている生徒指導上の諸問題を解決する一つの鍵となるものとするからである。

V 資 料

質問紙調査票と回答結果

※ () は教師用

昭和58年10月

生徒用 (教師用)

中学生の学校の生活に関する気持ち(教師の考え)についての調査

山形県教育センター

お願い

山形県教育センターでは、みなさん(生徒たち)の主として学校の生活についての気持ち(かかわって、先生方の考え)をまとめてみたいと思っています。学校の名まえ(名称)やあなた自身の名前を書く必要はありません。あなた自身やあなたの学校に迷惑をかけるようなことはありませんので、思ったとおりのことを答えてください(率直にお答えください)。

質問は全部で18あります。どの質問でもいくつかの答えが用意されています。その中から、あなたが、日ごろ思ったり、考えたりしていることに最も近いものを1つ選んで、選んだ答えの番号を□の中に記入してください。ただし、質問3、質問12、質問13、質問14、質問18では2つまで選んでください。

質問に先立っておたずねします。

(1) あなたは男ですか、女ですか。

1. 男 2. 女

	生徒	教師
1	51.9%	64.2%
2	48.1	35.8

(2) (あなたの教職経験年数は何年ですか。)

1. ~9年 2. 10年~19年
3. 20年~29年 4. 30年~

	生徒	教師
1		27.5%
2		22.5
3		31.5
4		18.5

(3) (あなたの学校の第3学年の学級数は何学級ですか。)

1. 1学級 2. 2学級~3学級
3. 4学級~6学級 4. 7学級~

	生徒	教師
1		8.0%
2		24.5
3		35.7
4		31.8

質問1 近ごろ、あなた(生徒たち)は、一日の学校生活が終わってその日の学校生活をふりかえるとき、満たされた気持ちになることが多いですか(多いと思いますか)、それとも少ないですか(少ないと思いますか)。

1. 満たされた気持ちになるときが非常に多い
2. 満たされた気持ちになるときが多い
3. 満たされた気持ちになるときが少ない
4. 満たされた気持ちになるときが非常に少ない
5. どちらともいえない

	生徒	教師
1	1.3%	0.7%
2	18.2	47.8
3	26.9	32.3
4	15.5	7.7
5	38.1	11.5

質問 2 質問 1 で “満たされた気持ちになることが少ない”, “満たされた気持ちになることが非常に少ない” を選んだ人 (方) だけ答えてください。

それは、どういうことからですか (どういふことからだと思いますか)。

1. 授業がわからないから
2. なかのよい友だちがいらないから
3. 自分のことを認めてくれる先生がいらないから
4. 学校のきまりが厳しいから
5. 好きな部活動がないから
6. 友だちなどからいじめられるから
7. クラスのふんいきがおもしろくないから
8. 学校の生活に熱中できるものがないから

	生徒	教師
1	14.4%	17.1%
2	2.1	0.8
3	7.5	1.3
4	4.5	0.8
5	3.6	2.1
6	2.6	0.4
7	18.6	7.1
8	45.0	63.3

質問 3 あなたは (生徒たち) は、学校の生活にどんなことを期待していますか (期待していると思いますか)。
2 つまで選んでください。

1. 友だちと話をしたり、遊んだりすること
2. 先生と話をしたり、遊んだりすること
3. 部活動などで趣味や特技を伸ばすこと
4. 本を読んだり、先生や友だちと議論したりすること
5. 将来の生き方を考えながら勉強すること
6. 高校入試に合格できるように勉強すること
7. 期待するものがない

	生徒	教師
1	75.7%	81.2%
2	6.8	9.0
3	30.6	66.8
4	8.2	3.8
5	22.9	10.8
6	39.3	18.1
7	10.8	9.9

質問 4 あなた (生徒たち) は、先生からしかられたとき、どのような気持ちになることが多いですか (多いと思いますか)。

1. 学校を休みたい気持ちになることが多い
2. 先生に反抗したい気持ちになることが多い
3. 先生に感謝したい気持ちになることが多い
4. 先生に対してすまないという気持ちになることが多い
5. 自分が悪いのだからしかたがないと思うことが多い
6. 理由をよく聞いてからしかってほしいと思うことが多い
7. 自分の気持ちを先生に理解してもらえなくて情なく思うことが多い

	生徒	教師
1	1.4%	0.2%
2	22.4	20.0
3	1.4	0.7
4	4.2	5.2
5	32.0	49.2
6	30.5	17.5
7	8.1	7.0

質問 5 あなた (生徒たち) は、いま、どんなことに不安や悩みをもっていますか (もっていると思いますか)。

1. 勉強のこと
2. 進学する高校や就職する会社のこと
3. 将来の生き方のこと
4. 友だちや上級生とのこと
5. 学級会活動や生徒会活動のこと
6. 部活動のこと
7. 先生とのこと
8. 性格や身体的なこと
9. 両親や兄弟などのこと

	生徒	教師
1	27.2%	44.2%
2	47.8	19.0
3	12.5	3.5
4	4.1	28.7
5	1.4	0.2
6	0.4	2.0
7	0.9	0.2
8	4.1	1.8
9	1.3	0.3

質問 6 あなたの学校で、あなたのこと (生徒たちは自分のこと) をわかってくれる先生がどのくらいいると思いますか (どのくらいいると思っているのでしょうか)。

1. ほとんどの先生がわかってきていると思う (思っている)
2. 3 分の 2 くらいの先生がわかってきていると思う (思っている)
3. 半分くらいの先生がわかってきていると思う (思っている)
4. 3 分の 1 くらいの先生がわかってきていると思う (思っている)
5. ほとんどの先生がわかってきていないと思う (思っている)

	生徒	教師
1	5.1%	3.3%
2	5.6	19.5
3	13.8	41.3
4	29.8	24.0
5	45.4	11.2

質問 7 あなた (生徒たち) は、学校のきまりを守ることにどう思っていますか (思っているとおもいますか)。

1. 学校のきまりだから、すすんで守らなければならない (と思っている)
2. 学校のきまりだから、しかたなく守らなければならない (と思っている)
3. きまりが多すぎて、守りたくとも守れない (と思っている)
4. きまりとしておかしいと思うものもあるので、守れない (と思っている)

	生徒	教師
1	16.9%	9.0%
2	53.3	84.0
3	13.6	4.5
4	16.2	2.5

質問 8 学校のきまりで禁止されているズボンをはいている生徒がいました。先生が何度注意しても、その生徒は、先生の注意に従いません。

そのようなとき、あなた (生徒たち) はどうしますか (どのような気持ちになると思いますか)。

1. 先生の注意に従ってきまりを守るように、直接注意する (したい)
2. もっと強く注意してくれるように、先生に申し出る (出たい)
3. その生徒がきまりを守るように、生徒会や学級会の問題としてとりあげてもらいたい
4. そのきまりを改めるように、生徒会や学級会の問題としてとりあげてもらいたい
5. きまりを守らなくともどうということはないので、自分もそのようなズボンををはいてきたい
6. 見ても見ないふりをする (したい)

	生徒	教師
1	8.1%	6.8%
2	5.9	35.3
3	12.5	27.3
4	10.0	1.8
5	15.9	9.3
6	47.2	19.0

質問 9 あなた (生徒たち) には、(それぞれ、) きらいな教科がありますか (あると思いますか)。

1. ある
2. ない
3. どちらともいえない

	生徒	教師
1	88.1%	93.2%
2	3.2	0.7
3	8.7	5.8

質問 10 質問 9 で “ある” を選んだ人 (方) だけ答えてください。

(1) その教科はどれですか (どれだと思いますか)。

- | | | |
|---------|----------|-------|
| 1. 国語 | 2. 社会 | 3. 数学 |
| 4. 理科 | 5. 音楽 | 6. 美術 |
| 7. 保健体育 | 8. 技術・家庭 | 9. 英語 |

	生徒	教師
1	7.1%	3.4%
2	7.9	5.4
3	23.1	26.1
4	9.5	11.8
5	4.1	2.5
6	4.2	0.5
7	3.1	0.5
8	3.6	0.2
9	37.1	36.3

(2) どういう理由からきれいなのですか(きれいなのだと思いますか)。

1. 学習する内容がむずかしかったり、できなかったりするから
2. 授業の進み方がはやすぎるから
3. 先生の説明することがわからないから
4. 興味がわからないから
5. 教科を受け持つ先生がきらいだから
6. テストや宿題が多いから
7. 先生からの質問や指名が多いから
8. 自分の考えを述べたり、活動したりすることが少ないから
9. 授業のとき騒がしいから

	生徒	教師
1	38.4%	66.2%
2	4.0	4.3
3	19.0	5.2
4	21.1	9.7
5	13.5	2.1
6	0.5	1.1
7	1.3	0.9
8	0.8	4.1
9	1.4	2.3

質問11 あなた(生徒たち)は、(それぞれ、)きれいな教科の授業では、先生にどんなことを希望しますか(希望していると思いますか)。

1. わからないところは、一人ひとりに説明してほしい
2. 授業の進み方をゆっくりしてほしい
3. わかりやすく説明してほしい
4. 教科書にのっていないことでも、いろいろと説明してほしい
5. 勉強のしかたがわかるように授業を進めてほしい
6. テストや宿題を少なくしてほしい
7. 先生からの質問や指名を少なくしてほしい
8. 自分の考えを述べたり、活動したりすることができるようにしてほしい
9. 静かな中で勉強できるようにしてほしい

	生徒	教師
1	9.1%	24.5%
2	6.0	12.0
3	41.6	24.2
4	7.2	3.2
5	22.6	25.3
6	3.0	1.3
7	4.8	1.3
8	1.8	4.0
9	3.3	2.8

質問12 あなた(生徒たち)は、中学校を卒業した後、どの高校に進学するか、あるいは、どの会社で就職するかを決めるとき、どんな不安や悩みをもっていますか(もっていると思いますか)。
2つまで選んでください。

1. いまの成績で合格できるかどうか
2. 進学したい高校、あるいは、就職したい会社の内容がわからない
3. 高校卒業後の進学や就職についてのことがわからない
4. 自分の性格、適性が何に向いているかわからない
5. 家の経済が豊かでない
6. 先生の考えと合わない
7. 親の考えと合わない
8. あまりない

	生徒	教師
1	83.3%	95.0%
2	19.6	27.9
3	27.2	12.5
4	36.6	43.3
5	4.4	0.5
6	1.6	2.2
7	12.5	13.3
8	10.5	4.2

質問13 あなた(生徒たち)は、質問12で選んだ不安や悩みをとりのぞくために、どういうことを先生から教えてもらいたいと思いますか(思っているとおもいますか)。
2つまで選んでください。

1. 進学したいと考えている高校、あるいは、就職したいと考えている会社に合格するためには、どのように勉強すればよいのかなどについて
2. 進学したい高校でどんなことを勉強するのか、また、どんな部活動があるのか、あるいは、就職したい会社でどんな仕事をするのかなどについて
3. その高校を卒業した後、どんな大学に進学できるのか、また、どんなところ就職できるのかなどについて

	生徒	教師
1	76.6%	93.3%
2	31.7	43.0
3	35.7	13.3
4	41.7	46.9
5	8.0	1.3

4. その高校、あるいは、その会社での生活が自分の性格、適性に合っているかどうかなどについて
5. その高校で勉強するとき、どのくらいのお金がかかるかなどについて

質問14 あなた(生徒たち)は、中学校を卒業した後、進学する高校、あるいは、就職する会社を選ぶとき、どういうことを考えて選びますか(選ぶと思いますか)。2つまで選んでください。

1. 成績のぐあい
2. 自分のもっている興味や関心
3. 親の考え
4. 先生の考え
5. 友だちの考え
6. 自分に向いている仕事のこと
7. 家業のこと
8. 家の経済のこと

	生徒	教師
1	70.4%	93.2%
2	57.2	40.1
3	11.6	10.9
4	2.4	33.7
5	4.4	8.1
6	40.5	9.2
7	4.8	1.5
8	5.4	2.2

質問15 中学生の中に、万引きをしたり、たばこをすったりするなどの問題行動を起こす生徒が多くなっているといわれています。その生徒たちがそのような行動を起こす原因について、あなた(生徒たち)は、どう考えますか(どう考えていると思いますか)。

1. 本人に中学生としての自覚がないから
2. 友だちから仲間はずれにされるから
3. 学校の生活がおもしろくないから
4. 家庭の生活がおもしろくないから
5. テレビを見たり、週刊誌などを読んで好奇心がわくから
6. "カッコ"よいから
7. 自分を目立たせたいから

	生徒	教師
1	12.1%	19.5%
2	5.0	10.2
3	29.2	12.2
4	17.5	9.7
5	11.2	20.8
6	6.8	6.0
7	17.8	21.0

質問16 近ごろ、中学生の中に、先生や校舎などに暴力をふるう生徒が多くなっているといわれています。その生徒たちがそのような行動を起こすことについて、あなた(生徒たち)はどう考えますか(どう考えていると思いますか)。

1. どんな場合でもやるべきでない
2. 場合によってはやむをえない
3. 自分もやってみたい
4. わからない

	生徒	教師
1	36.7%	54.5%
2	31.7	17.3
3	4.3	12.2
4	27.1	15.8

質問17 あなた(生徒たち)は、先生の生徒への接し方に関係して(かわって)、先生へ強く反抗したくなったことがありますか(あると思いますか)。

1. しばしばある
2. 時々ある
3. ない

	生徒	教師
1	27.1%	10.7%
2	61.3	83.2
3	11.6	6.0

質問18 質問17で"しばしばある","時々ある"を選んだ人(方)だけ答えてください。それは、主にどんなときでしたか(どんなときであったと思いますか)。2つまで選んでください。

1. 先生の言うことやすることが、その日その日によって違ったとき
2. 生徒の言いぶんを聞くことよりも、先生の考えを押しつけてきたとき
3. 宿題や提出物を出させることは厳しいけれども、それをよく見てくれなかったとき
4. ある人だけをかわいがったり、厳しくしたりして、生徒たちを公平にあつかわなかったとき
5. 生徒たちをわけもなくからかったり、軽べつしたりしたとき
6. 生徒たちの気持ちを考えない話し方やあつかい方で、生徒たちの心を傷つけたとき
7. 先生がまちがっていると気づいても、それを認めようとしなかったとき
8. 先生が日ごろ言っていることと、先生のすることが違っていたとき
9. 先生が自分の感情をむき出しにして、生徒たちにあたってきたとき

	生徒	教師
1	17.2%	19.4%
2	49.5	44.0
3	2.6	13.0
4	35.8	25.6
5	9.9	17.2
6	29.3	26.8
7	19.1	17.9
8	14.0	18.5
9	19.8	13.3

昭和 59 年 3 月 20 日 印刷

昭和 59 年 3 月 25 日 発行

発行所 山 形 県 教 育 セ ン タ ー

〒 994 天童市大字山元字犬倉津 2515

TEL (0236) 54-2155~9

印刷所 マ キ 印 刷

〒 999-35 西村山郡河北町谷地丙 72

TEL (02377) 3-3926
